

2025（令和 7）年 6 月 5 日
東京都千代田区四番町 5 番地 3
科学技術振興機構（JST）
Tel：03-5214-8404（広報課）
URL <https://www.jst.go.jp>

**第 4 回羽ばたく女性研究者賞（マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞）
受賞者の決定について
～国際的に活躍が期待される若手女性研究者を表彰～**

JST（理事長 橋本 和仁）は、第 4 回羽ばたく女性研究者賞（マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞）の受賞者を決定しました。

<最優秀賞>



藤代 有絵子（フジシロ ユカコ）氏
理化学研究所
創発物性科学研究センター／同 開拓研究所
極限量子固体物性理研 ECL 研究ユニット 理研 ECL 研究ユニットリーダー
専門分野：物性物理学

<奨励賞>



鄭 麗嘉（テイ レイカ）氏
スタンフォード大学
医学部 遺伝子学科 博士研究員
専門分野：分子生物学



吉本 愛梨（ヨシモト アイリ）氏
スタンフォード大学
生物学科 日本学術振興会 海外特別研究員
専門分野：神経科学

第 4 回となる今回は、2024 年 10 月 1 日から 12 月 10 日まで応募を受け付け、外部有識者からなる選考委員会（別紙 2）による審査を経て、最優秀賞 1 人、奨励賞 2 人の受賞としました。なお、日本電子株式会社（JEOL）の協賛により、最優秀賞受賞者に 100 万円、奨励賞受賞者に各 50 万円の賞金を贈呈します。また、最優秀賞受賞者には、駐日ポーランド共和国大使館およびポーランド科学アカデミーより、マリアが生まれ育ったポーランドの研究機関などへの訪問機会が提供されます。

<添付資料>

別紙1：第4回羽ばたく女性研究者賞（マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞）受賞者

別紙2：羽ばたく女性研究者賞（マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞）について

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 人財部 ダイバーシティ推進室

〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3

嶋田 一義（シマダ カズヨシ）

Tel：03-5214-8443

E-mail：diversity[at]jst.go.jp

<科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

第 4 回羽ばたく女性研究者賞（マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞）受賞者

（敬称略）

最優秀賞

賞金：100 万円

副賞：ポーランドへの渡航・研究機関などを訪問するための滞在費を支弁

藤代 有絵子（フジシロ ユカコ）

理化学研究所 創発物性科学研究センター／同 開拓研究所

極限量子固体物性理研 ECL 研究ユニット 理研 ECL 研究ユニットリーダー

<専門分野>

物性物理学

<経歴>

2016 年 東京大学 工学部 物理工学科 卒

2018 年 東京大学 大学院工学系研究科 修士課程 修了

2018 年 日本学術振興会 特別研究員（DC1）

2021 年 東京大学 大学院工学系研究科 博士課程 修了

2021 年 理化学研究所 基礎科学特別研究員

2024 年 理化学研究所 創発物性科学研究センター／同 開拓研究本部※

極限量子固体物性理研 ECL 研究ユニット 理研 ECL 研究ユニットリーダー（現職）

※ 2025 年 4 月より開拓研究所に改称

<受賞理由>

藤代氏は、トポロジカルな秩序変数を変える相転移を観測したいという自らの探究心からプロジェクトを開始、強いリーダーシップを発揮し、国内外で評価される優れた研究成果をあげている。新たな量子物質の合成と特性評価における革新的なアプローチは、今後、社会インフラや電子デバイスにパラダイムシフトをもたらす貢献が期待される。

高いプレゼンテーション能力を持ち、若手研究者の支援や科学コミュニケーションにも尽力しており、国内外においてますますの活躍が期待できる研究者である。

奨励賞

賞金：各 50 万円

鄭 麗嘉（テイ レイカ）

スタンフォード大学 医学部 遺伝子学科 博士研究員

<専門分野>

分子生物学

<経歴>

2012 年 久留米大学附設高等学校 卒

2016 年 東京大学 工学部 化学生命工学科 卒

2018 年 コーネル大学 化学科 修士課程 修了

2022 年 コーネル大学 化学科 博士課程 修了

2022 年 スタンフォード大学 医学部 遺伝子学科 博士研究員（現職）

<受賞理由>

鄭氏は独自の分子ツール開発を通じた細胞内生体分子の動態解明や制御においてオリジナリティーに富んだ研究を意欲的に進め、優れた研究成果をあげている。明確なビジョンに基づいた野心的な研究活動にはさらなる飛躍が期待できる。

研究活動と並行して、自らの経験を生かし、次世代や留学生への講演を行い、研究環境における多様性の重要性を共有している。世界で活躍する若手研究者として将来性に満ちた研究者である。

吉本 愛梨（ヨシモト アイリ）

スタンフォード大学 生物学科 日本学術振興会 海外特別研究員

<専門分野>

神経科学

<経歴>

2015 年 湘南白百合学園高等学校 卒

2021 年 慶應義塾大学 薬学部 薬学科 卒

2022 年 日本学術振興会 特別研究員（DC1）

2025 年 東京大学 大学院薬学系研究科 博士課程 修了

2025 年 スタンフォード大学 生物学科 日本学術振興会 海外特別研究員（現職）

<受賞理由>

吉本氏は、脳神経系と末梢制御系の協調に着目した研究に取り組み、意図的な心拍制御を可能にする神経メカニズムの解明など、大学院生（選考時点）でありながらすでに多くの優れた成果をあげている。国際共同研究にも積極的に参画し、国内外の複数の大学で研究活動を進めてきた経験を持つ。研究者としてますますの飛躍が期待できる。

研究に対する熱意と行動力、そして優れたプレゼンテーション能力は、研究者としてだけでなく教育者としても高いポテンシャルを感じさせる。その将来が非常に楽しい研究者である。

羽ばたく女性研究者賞（マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞）について

JST では、科学技術・イノベーションの創出に向けて女性研究者の活躍を推進しており、2021 年度、駐日ポーランド共和国大使館と共に、日本の女性研究者のより一層の活躍推進に貢献することを目的に、国際的に活躍が期待される若手女性研究者を表彰する「羽ばたく女性研究者賞（マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞）」を創設しました。本賞は、ポーランドが生んだ偉大な女性研究者、マリア・スクウォドフスカ＝キュリーが、30 歳前半での功績を認められ後にノーベル賞を受賞したことにちなみ、その名を冠しています。

本賞が対象としている博士後期課程および博士号取得後数年以内の女性研究者は、自立した研究者としての飛躍が最も期待される一方で、さまざまなライフイベントに直面することが多いのも事実です。本賞によって受賞者の活躍を称え広く知ってもらうことが、情熱としなやかさをもって飛躍しようとする女性研究者への応援と次世代の女性研究者育成につながることを期待しています。

詳細につきましては、ウェブページをご参照ください。

URL : <https://www.jst.go.jp/diversity/researcher/mscaward/>

選考委員一覧（敬称略、委員長を除き五十音順、役職は公募開始時点）

日比谷 潤子（委員長）	国際基督教大学 名誉教授
岩尾 エマ はるか	Google ソフトウェアエンジニア
戎家 美紀	ドレスデン工科大学 Physics of Life 教授
	アレクサンダーフンボルト教授
大栗 博司	東京大学 特別教授
	カリフォルニア工科大学 フレッド・カブリ冠教授および
	ウォルター・バーク理論物理学研究所 所長
合田 裕紀子	沖縄科学技術大学院大学 シナプス生物学ユニット 教授
小谷 元子	東北大学 理事・副学長（研究国際戦略・展開担当）
	同 大学院理学研究科 数学専攻 教授
齊藤 英治	東京大学 大学院工学系研究科 物理工学専攻 教授
沼田 圭司	京都大学 大学院工学研究科 教授
	理化学研究所 環境資源科学研究センター チームリーダー
トマシュ ルトコフスキ Tomasz M. Rutkowski	理化学研究所 革新知能統合研究センター 研究員
	東京大学 リサーチフェロー